

北海道浮魚ニュース

平成 25 (2013) 年度 15 号

2013 年 8 月 30 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

スルメイカ漁場一斉調査結果 (道南太平洋海域)

道南太平洋の 8 月下旬のスルメイカ分布密度は昨年を下回り、過去 5 年との比較では 3 番目に低い値であった。魚体サイズは過去 5 年平均より大きく昨年並み。

釧路水試調査船北辰丸及び函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 8 月 21 日 ~ 24 日 (北辰丸)、8 月 22 日 ~ 23 日 (金星丸)
- ・ 調査海域 : 浦河沖 ~ 下北半島東沖 (北辰丸)、函館沖 (金星丸)

昨年及び過去 5 年 (2008 ~ 2012 年) のデータと比較しました。

1. 水温分布 (図 1、2)

漁獲調査点 4 地点の表面水温は 23.6 ~ 24.7

(昨年 21.8 ~ 24.8) の範囲にあり、函館沖 St.16 を除く 3 調査点で昨年以上回りました。水深 50m の水温は 13.6 ~ 21.2

(昨年 11.8 ~ 19.4) の範囲にあり、全ての調査点で昨年以上回りました。

海域全体の水深 50m 層の水温分布は、特に調査海域の南側で昨年より高い傾向が見られ、津軽海峡以南の広い範囲に水温 20 を超える海域がありました。

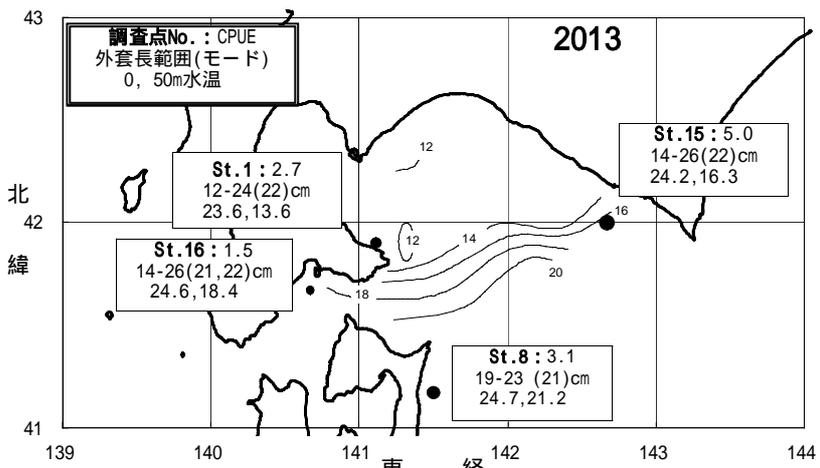


図 1 2013 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 21 ~ 24 日、北辰丸・金星丸) は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

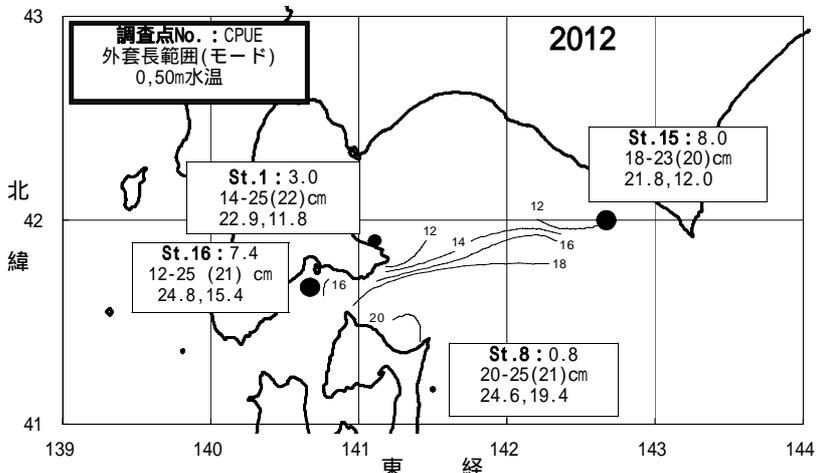


図 2 2012 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 21 ~ 24 日、北辰丸・金星丸) は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

表 1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋 8 月）の CPUE と外套長の経年変化

	2008(H20) 8/18-8/22	2009(H21) 8/17-8/20	2010(H22) 8/19-8/25	2011(H23) 8/17-8/26	2012(H24) 8/21-8/24	2013(H25) 8/21-8/24
St.1(木直沖)CPUE	0.8	10.3	0.4	5.2	3.0	2.7
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	7.8	0.2	1.7	0.8	3.1
St.15(浦河沖)CPUE	30.7	91.3	1.1	1.0	8.0	5.0
St.16(函館沖)CPUE	-	-	3.1	2.1	7.4	1.5
平均CPUE (尾/(台・時))	15.8	36.5	1.2	2.5	4.8	3.1
外套長の範囲(cm)	15-23	9-26	12-26	10-26	12-25	12-26
外套長モードの範囲(cm)	19-20	20-22	18-22	19-22	20-22	21-22

2 . 分布密度

漁獲調査点 4 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）の平均は 3.1 で昨年の平均（4.8）を下回り、過去 5 年との比較では 3 番目に低い値でした。最も分布密度が高かった調査点は浦河沖 St.15（5.0）でした。（図 1、表 1）。

3 . スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、調査点全体で 12 ~ 26cm（昨年 12 ~ 25cm）の範囲にありましたが（図 1、3、表 1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 21cm（昨年 21cm、過去 5 年平均 20cm）で、全体的な魚体サイズは昨年と同程度で過去 5 年平均より大型でした。（図 3）。

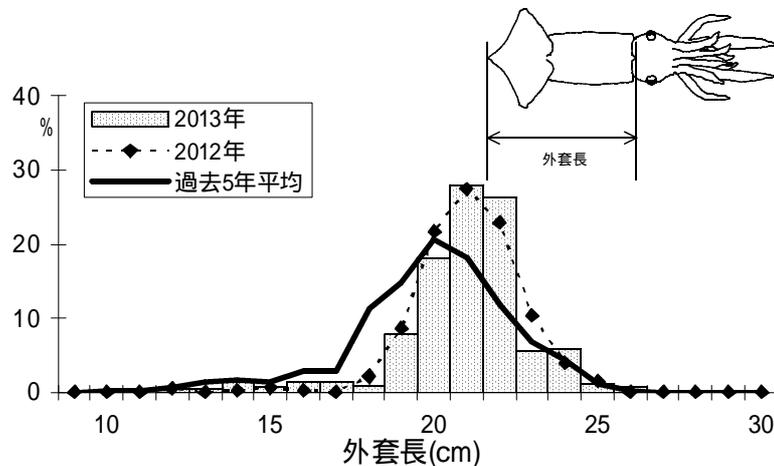


図 3 海域全体の外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991）